

【資料① なぜ「ちゃんこ」なのか】

【理由】

それは「小田原マルシェの食材の良さを、一度で味わってほしいから！」です。

そして、小田原の落語に由来します。

落語「寛政力士伝」…春風亭小朝さんの噺

江戸時代の相撲取りで人気実力ともに随一の力士に横綱谷風梶之助がいた。温厚でしられる彼が唯一怒ったことがあった。伊豆下田に大巖（おおいわ）大五郎という素人ながら相撲が強い男がいた。人格は粗暴極まりなく、天狗になった大巖は「江戸の相撲取りと一番やりたいが、怖くて箱根を越えられないだろう」とうそぶいた。これを谷風が聞き、小田原で3日間興行を打って開催することになった。

そして初日。大巖の対戦相手は頭突きの鯨清五郎。結果、大巖が行司に見えないよう指で目潰しをし、勝利。とはいえ大巖は鯨の頭突きを受けてもこらえたので、間違いなく強いことが谷風には分かった。

宿にかえり、思案していた谷風のもとに、ある親子が訪れる。母親が言うには、亭主が奉納相撲で大巖に卑怯な相撲で投げ殺されたのだと、その遺恨を晴らして欲しいという。それを喫越しに聞いていたのが力士・雷電であった。雷電は「私がとりましょう」と申し出た。

2日目。行司木村庄之助が呼び上げた大巖、こなた雷電。雷電は197センチ、169キロだったというが、大巖はそれより一回り大きかった。軍配をあげ、相撲が始まった。時に雷電が土俵際に追い詰められるも、両の腕を下ろしてカンヌキの形に入った。そして異様な音がした…大巖の腕が折れたのだった。さらに雷電は張り手で大巖の顔面を張った。後に雷電の張り手は禁じ手になるほどで、威力はすさまじいものだったため、大巖の顔は腫れ上がった。そんな大巖を雷電は場外に投げ飛ばした。場内は割れんばかりの興奮と熱気であふれかえった。

谷風・雷電の師弟が親子のあだを討ったという、小田原相撲の一席でした。